

J R 草薙駅南口グランドデザインの実現に向けたバス交通に関する研究

静岡県立大学 経営情報学部 岸ゼミ

指導教員：准教授 岸昭雄

参加学生：川田紫織、中島淳之介、三森まゆ

1. 要約

草薙地区は歴史や文化に富んだ文教地区であり、静岡市の都市計画においては地域拠点に指定されている。本研究では、草薙奥・草薙団地・草薙つつじが丘・山の手の4つのエリアに焦点を当て、先行事例の視察や住民とのワークショップ等によって得た情報をもとに、草薙地区の移動環境を向上させる新たな公共交通を提案する。

2. 研究の目的

草薙地区にはJR草薙駅と静鉄草薙駅の2つの交通結節点があり、これは近隣地区との差別化を図ることができる大きな強みである。しかし実際のところ、それら駅に向かう路線バスの便数が少なく、また、一般のバス車両であるために狭い路地や団地内には入り込むことができない。要するに、駅までのアクセスが悪く、鉄道駅が2つあるという強みが生かし切れていないというのが現状である。そのため住民のほとんどが自動車に依存した生活スタイルに陥っており、長期的な視点で見ると、この状況は決して良いものではない。草薙地区を持続可能なまちにするには、過度に自動車に依存しない、徒歩や公共交通を中心としたまちにする必要がある。このような現状を踏まえ、駅までのアクセスを向上させるための新たな公共交通を提案することが本研究の目的である。

3. 研究の内容

先行事例の視察や草薙カイギでの住民とのワークショップを通し、草薙地区に適する交通システムを考えた。また、第2回草薙カイギのワークショップで、住民の方々の生活拠点や実際に良く通る道を可視化し、具体的なルートや運行主体についても考えた。

4. 研究の成果

(1) 当初の計画

8月下旬から静岡市、まちづくりの総合技術コンサルタントである昭和株式会社、COCの小山様と草薙カイギの打ち合わせを行い、内容を検討する。10月に第1回草薙カイギを行い、そこでの議論内容を踏まえて、11月に先行事例の視察を行う。12月に第2回草薙カイギを行い、草薙地区に取り入れたい公共交通について具体的な議論をし、それらの取りまとめを1月のJR草薙駅南口グランドデザイン研究会（以下「GD研究会」という）で報告する。

(2) 実際の内容とその理由（B：一部修正）

- ・ 8月29日、9月3日 静岡市との打ち合わせ
第1回草薙カイギのコンセプト、内容及び会議メンバーの検討をするため。
- ・ 9月26日 静岡市、昭和株式会社、COC小山様との打ち合わせ
第1回草薙カイギで取り組むワークショップ内容を計画するため。
- ・ 10月7日 草薙団地に住む高齢者へのヒアリング
実際に暮らす方の生活スタイルを把握するため。
- ・ 10月13日 第1回草薙カイギの実施
草薙地区の交通環境の実態を住民に知ってもらうため。
- ・ 11月15、16日 神奈川県川崎市宮前区野川南台地区のコミュニティバス「みらい」と、神奈川県横浜市金沢区富岡地区のゴルフカートを用いた実証実験「とみおかーと」の視察
様々な交通システムの実態を知るため。
- ・ 12月15日 第2回草薙カイギの実施
生活拠点やよく通る道を顕在化すると共に、運営・運行主体の議論をし、草薙に適する交通システムの検討をするため。
- ・ 1月18日 GD研究会（第6回）への参加
全2回の草薙カイギで集約された住民の意見を報告し、実現可能性を自治会長らと議論するため。

B:一部修正の理由：静岡市などと草薙カイギの内容について検討する中で、住民の生の声を聴く必要があるとわかり、草薙地区に長く暮らしている高齢者へのヒアリングを追加した。

(3) 実績・成果と課題

- ・ 草薙団地に住む高齢者へのヒアリングでは、バスの便数が少ないために、買い物等のお出かけを極力控えていることがわかった。毎回タクシーを利用すると出費が増えるため、デマンド交通や乗合タクシーのような小さな車両で小回りが利く、かつ、運賃の比較的安い交通が欲しいという意見も得られた。
- ・ 第1回草薙カイギでは、交通利便性とまちの魅力の関係性について学生側から簡単に講義をした。ワークショップは、実際のしずてつバスの時刻表、タクシー料金、徒歩でかかる時間を提示しながら行うことで、草薙地区には公共交通不便地域があることや、自動車に依存し続けることの危険性を住民に知ってもらうことができた。
- ・ 第2回草薙カイギでは、11月に行った視察の報告を学生から報告した。ワークショップでは、実際に草薙地区に暮らす人の生活拠点やよく通る道を白地図に書き込んでもらい、それらを顕在化することができた。加えて、草薙地区に適する交通システムの、車両・運営主体・運行主体・乗るための工夫等のアイデア出しを行い、住民の意向を知ることができた。

・神奈川県川崎市宮前区野川南台地区のコミュニティバス「みらい」の視察では、コミュニティバスのような地域を支える交通システムには、住民の協力しあう姿勢が非常に重要であることが分かった。

・神奈川県横浜市金沢区富岡地区のゴルフカートを用いた実証実験「とみおかーと」では、ゴルフカートというかなりコンパクトな車両でも地域の規模によっては十分であることがわかった。また、一度実証実験をやることで住民の反応を得て、その後の実現可能性の検討がより具体的にできるようになることがわかった。草薙地区でも実証実験を早期に行いたいところではあるが、予算をどう組むかについては今後の課題である。

(4) 今後の改善点や対策

実証実験を行うための予算をどこから捻出するかが課題である。「とみおかーと」の事例では公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団というところから予算が出されていた。行政からの予算に頼るのではなく、そういった団体に積極的に取り組みをアピールすることも視野に入れていきたい。

5. 地域への提言

草薙地区の規模や既存のバス路線の現状、草薙カイギでの意見などを踏まえ、草薙に適する交通は、小回りの利くコンパクトな交通であると考えた。既存の一般バス路線を補完するような形で、現在バス停がない公共交通不便地域を解消できるような地域主体の公共交通を取り入れたい。車両については草薙地区の狭い道路も通行可能な小型のもの、ルートについては既存のバス停や、第2回草薙カイギで挙げられた生活拠点のある程度経由するのが望ましい。

マインド的な観点からは、どんな交通システムを取り入れるにしても、地域住民の協力は必要不可欠であること提言したい。「今は車があるから困らない」といったような短期的な思考ではなく、将来のことを見据え、自分自身が高齢になり免許を返納した際のことを想像するなどして、長期的な視点で考えることが大切だと感じる。地域の課題も住民が認識し、一丸となって解決しようとするからこそ、魅力的なまちづくりの第一歩であると考えます。

6. 地域からの評価

草薙地区に暮らす高齢者にヒアリングを行った際、学生が草薙地区の交通の課題を解決しようと取り組んでくれることに感謝している、というお声を頂いた。また、草薙商店会の方や静岡市からは、年々計画が具体化され実現に近づいていることに感心している、というお声を頂いた。



↑ワークショップの様子→



横浜市金沢区「とみおかーと」



川崎市宮前区「みらい」